

横浜市立菊名小学校
校長 酒井 勲

全国学力・学習状況調査結果についてのお知らせ

本年度の4月に小学校6年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。この調査結果を踏まえ、今後の本校としての取り組みについてご説明します。

今回の調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。この調査結果に一喜一憂することなく、子どもたちの力をつけることに、引き続き取り組んでいきます。地域・保護者の皆様には、今後とも、本校教育にご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。なお、今月中に調査結果を子どもたちに返却の予定です。

調査結果の概要

調査は、子どもたちの生活を尋ねる「質問紙調査」と「国語」「算数」の学習状況を調査する問題とでおこなわれました。教科の調査では「A問題、知識を問う」「B問題、知識・技能を活用する力を問う」があります。

質問紙調査では、全国と神奈川県の結果と菊名小の結果をみて、気づいた所をお知らせします。横浜市の「国語」「算数」の結果は、「A問題は、おおむね理解している」「B問題は、課題があります」とあります。菊名小学校の結果は、横浜市、神奈川県、全国の平均より高い数値を示していました。これは喜ばしいことですが、菊名の課題を、この調査よりみつけることができました。子どもたちの課題と教師の教科指導に対する課題でもあります。

質問紙調査結果

調査の結果は全国や県内と大きく変わるものではありません。その中で菊名小の特徴として、日常の学習時間がとても多いことが挙げられます。学校の予習や復習に充てられるだけでなく、学習塾や習い事に通っていることによるためのようです。そのため、睡眠時間が少なかったり、家の人と一緒に食事や運動をしたり、家の手伝いをしたりすることが少なくなっています。子どもとの会話をさらに増やしてあげたいと思いました。また、地域の行事に参加したり、困っている人を助けたり、近所の人に挨拶などを進んでするなど、人との関わりの機会が少ないようです。学校での挨拶運動などの成果を、地域でも生かしてほしいと思いました。

質問に「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦しているか」「自分にはよいところがあるか」の2つがあります。この質問に、当てはまると応えた子どもは、それほど多くなく、もっと自分に自信が持てるように誉めたり、認めたりすることの必要性を感じました。そして、学校の学習では、総合的な学習の時間に魅力を感じていない子どもがやや多く、国語や算数の学習が社会に出た時に役立つと思う子どもが少ないことも分かりました。学校として、学習内容の充実と、生活に関連した学習を、さらに図っていきたいと思います。

国語

「A問題、知識を問う」問題については、「漢字の読み、接続語を選ぶ、指示語が指し示す内容を選ぶ」問題の正答率が高く、菊名の子どもはよく理解していると感じました。しかし、「一つの文を二つの文に分けて書きかえる」問題では、どちらか一方の正答や両者とも書けなかった解答も見られました。文章を正しく読み取り、文の組み立てを理解して書くことが重要です。また、スピーチをする際、聞き手の表情を確かめながら話すことに気づくことができなかった解答が3分の1ありました。日頃から、授業中の発言や朝のスピーチなどの場面で、聞き手を意識して分かりやすく話すことが必要であることを感じました。

「B問題、知識・技能を活用する力を問う」の中の「情報を的確にとらえる、人に伝える際ていねいな表現にする」問題は、他の問題より正答率が高かったです。しかし、「複数の資料を読み取り新聞記事に書く」問題では、特に文章の内容を的確に押さえて要約する、情報の中から必要な事柄を取り出し決められた条件の形に書きかえる、という2つの力が、あと一步でした。このような力をつけるために、各教科等で様々な資料を調べて検討する学習や、文章を正確に読み取る学習を行っていくことが、重要だと思います。また、「2つの文章を比べて読み、共通する書き方のよさや工夫を見だし、自分の考えとしてまとめる」問題は、他の問題より正答率が低かったです。この力を伸ばすためには、文学作品や説明的文章とともに、新聞、雑誌、ラジオやテレビの番組、映画、ビデオなどの様々な文章や資料を読む学習の機会を設けていくこと、さらに、自分の考えをまとめる学習が必要であることも、大切と考えました。

算数

「A問題、知識を問う」の問題では、特に「計算問題や公式にあてはめて図形の面積を求める」問題の正答率が非常に高かったです。また、「ひもの長さを一定にして長方形や正方形をつくっていく」問題では、たてとよこの長さの関係から規則性をよみとり、問題を解決していく力があることもわかりました。しかし、「式から問題場面をよみとる」問題では、正しい記述を選択できないという課題がみられました。式は、数字と記号で問題場面を簡単に表現したものです。ですから、逆に、式から具体的な問題場面を想像する力も大切です。授業の中で、式から問題づくりやお話づくりをしていくような活動をさらに取り入れていく必要があると思いました。

「B問題、知識・技能を活用する力を問う」の問題については、「帯グラフから割合の変化の様子をよみとり、正しい記述を選ぶ」問題に、課題がありました。帯グラフの学習では、グラフのかき方や目盛りのよみ方に習熟するだけでなく、グラフからわかることを、考えるなど、今後は、算数科における読解力を、培っていくことが大切であると感じました。

最後に、「地図から必要な長さをよみとり、平行四辺形の形をした公園と長方形の形をした公園の面積を比較する」問題がありました。この問題は、子供たちの半数以上が正答できませんでした。

「A問題、知識を問う」の「平行四辺形の面積」の問題では、底辺と高さをしっかり読み取り、非常に高い正答率でした。しかし、この問題では、平行の概念から底辺と高さを、地図から読み取れなかったため、正答できなかったものと思います。生活の中から問題解決に必要な情報をみつけ、主体的にそれを活用していくためには、机の上の学習だけでなく、生活の様々な場面から学習したことを、みつけたり、あてはめたりする態度を培っていくことも、大切だと思いました。